



新津第一小学校通信

# もみじ



令和2年12月21日発行  
No.23  
児童数 407人

<http://www.niitsuiti.city-niigata.ed.jp>

## 自尊感情を高める言葉掛けを！

校長 田邊裕一

師走になりました。教育活動もPTA活動も制限されてきた中で、子どもたちは「て・マ・き」の約束を守り、感染を予防してきました。当たり前のように日々続けていることですが、立派なことだと思います。各家庭のご協力に感謝申し上げます。新型コロナウイルスの収束はまだまだ先になりそうです。しかし、必ず元どおりの学校生活に戻ることを信じて新年を迎えたいと思います。

さて、1年間で一番忙しい時期、年末年始を迎えます。子どもたちもお手伝いで活躍できる機会です。子どものやる気を上手に刺激し、結果ではなく、行動そのものを褒めてください。小学生のお手伝いですから、どんなに頑張っても大人がやるような結果は期待できません。手伝った行為そのものを具体的に褒めて、家族の話題としていただければ最高です。「今日の夕食は〇〇が手伝ってくれてとてもうれしかったの」などという会話が聞かれるといいですね。直接子どもを褒めるのもいいのですが、家族がうれしかったという気持ちを共有できると最高です。こんな経験を積んで育った子どもは、セルフエスティーム＝自尊感情（自分を好きになる気持ち）が高くなります。そして、くじけない心も強くなります。自尊感情は「自分を好きになる気持ち」ですから、親や友達から好かれる経験を通して育成されます。そして、人を思いやる気持ちが育つとともに、人を肯定的に認めることができるようになります。くれぐれもお手伝いの結果や内容で評価したり、兄弟と比較して褒めたり、けなしたりすることのないようお願いいたします。

星一郎氏の「子どものやる気を引き出す本」によると、

人はプライドが満たされないと自分を嫌いになってしまいがちです。子どもが自分を嫌うのは、友達との比較や競争が原因になっていることが多いようです。「友達にはできるのに、自分にはできない」と感じたりして、プライドが満たされないことによる場合が多いのです。

一方「セルフエスティーム」とは自分を尊敬する、つまり自分が自分を好きになることです。他人との比較や競争によってではなく、自分で自分の価値や順応性を認めて、世の中の役に立つ方向で力を尽くすことに意味があるのです。

社会で生活していく上で競争原理を排除することはできません。しかし、お手伝いの内容や行動を比較して評価する必要はありません。行動を丸ごと認めて、褒めることでセルフエスティームが高まるように心掛けたいものです。



# 行事予定

日	月	火	水	木	金	土
12/27	28 学校閉庁日	29 学校閉庁日	30 学校閉庁日	31 学校閉庁日	1/1 元日 学校閉庁日	2
3	4 諸校費口座振替日 学校閉庁日	5	6	7	8 全校朝会 (授業4限)	9
10	11 成人の日	12	13 市小研 (授業4限)	14 創立記念日 (148周年) 委員会 代表児童委員会	15 学習参観日 (授業5限) 作品展(絵画・ 書き初めの展 示)～22日	16
17	18	19	20 3年自学ひろば	21 代表児童委員会 上学年パワーア ップタイム①	22	23
24	25	26	27 6年一中入学説 明会 3年自学ひろば	28 委員会	29 代表児童委員会	30
31	2/1 全校朝会 生活&家庭学習 強調週間④ (～5日)	2	3 諸校費口座振替日 3年自学ひろば	4 委員会	5	6

※12月26日(土)～1月4日(月)は、学校閉庁日で無人となります。学校閉庁日に緊急の連絡がある場合は、新潟市教育委員会学校人事課(025-226-3237)へお願いします。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、予定が中止・変更になることがあります。

2020年も残すところ10日あまりとなりました。いよいよ、今週24日(木)から15日間の冬休みに入ります。例年のような季節の伝統的行事などを行なうことは難しいかもしれませんが、ぜひ家族で話し合い、工夫しながら充実した日々を送っていただきたいと思います。また、子どもたちが、今年1年間の振り返りと新しい年に向けての心の準備をしっかりと行えるよう、声掛けをよろしくお願いします。

どうぞよいお年をお迎えください。



県教育委員会発行の「かけはし」第49号(冬号)が配信されました。下記URLよりご覧ください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/1191169877149.html>

# 子どもの体験型安全教室での学び（1学年）

第1学年主任 高橋 博恵

市民生活課の方からお出でいただき、「子どもの体験型安全教室」を行いました。誘拐などの犯罪被害に遭うかもしれない危険と対峙したとき、自らの判断で危険を回避できるように、体験を通して自分を守る学習をしました。保護者ボランティア、地域ボランティアの方々からもお手伝いいただき、一人一人が身をもって次の4点について学ぶことができました。

**自分の風船**：自分と相手との安全な間合い（間隔）を体感しました。

**防犯ブザー**：鳴らし方や止め方、どんな時に鳴らすのかロールプレイをしました。

**口のブザー**：「助けて！」と大きな声を出す練習をしました。

**ノー・ランドセル**：ランドセルを脱ぎ捨てて、近くの安全な場所に逃げ込む練習をしました。



自分の風船



助けてください

110番の家

口のブザー

助けて！

ノー・ランドセル



# 自分も人も大切に(人権・同和教育)

人権・同和教育担当 高橋 広美

「人権」とは、「人間が人間らしく生きる権利」です。「すべての国民は法の下で平等であって、人種・信条・性別・社会的身分などにより差別されない」と日本国憲法14条に定められています。文字にすると堅苦しく感じるかもしれませんが、「自分も人も大切にされる」全ての人にとってとても大切な権利です。

学校では、道徳の時間はもちろん学校生活全体の中で、相手の気持ちを考えること、自分がされて嫌なことはしないなど、人権を尊重する態度が身に付くように指導しています。しかし「男だったら・・・」「女のくせに・・・」などの知らず知らず身に付いてきた固定観念が、まだ存在しています。数十年前に比べれば、男女とも職業選択範囲が広がっていますが、「～らしさ」に縛られてしまい自分のやりたいことを諦めてしまう可能性は残っています。子どもたちが、「自分の良さ」に気付いたり、「友達の良さ」や「人との違い」を認めたりできるような人権感覚を育てることが必要です。

人権意識は家庭や社会の中で育まれていきます。「自分も人も大切に」その人自身の好きなものや好きなことを尊重し、その人らしい生き方を互いに認め合い、世界で活躍できる人になることを願って指導しています。

